

令和3年度 生涯学習部研修会報告(西濃地域)

足病患者のリハビリテーションー発症・再発予防期ー

日時:令和3年11月27日(土)~28日(日)

時間:27日 10:30~16:10 28日 9:00~14:30

形式:WEB研修会(ZOOMを使用)

テーマ:「基礎編 足部の機能解剖と運動学、足病患者の病態・治療、運動学的アセスメント」

講師:【27日】

第1講 足部の解剖学と運動学

福富 広海 先生(公立豊岡病院日高医療センター リハビリテーション技術科)

第2講 下肢の血管解剖学と下肢動脈疾患の治療

齋藤 達弥 先生(桑園中央病院 救肢・創傷治療センター長、血管外科 医師)

第3講 糖尿病足病変の病態と治療

松本 健吾 先生(大分岡病院 形成外科 医師)

【28日】

第4講 IWGDF practical-guidelines に基づいた足病のリスク層別化と分類方法

河辺 信秀 先生(東都大学 幕張ヒューマンケア学部 理学療法学科 准教授)

第5講 足病患者の足部の形態的・運動学的特徴

第6講 解剖学と運動学からみた足部のアセスメント

大関 直也 先生(東京医科大学茨城医療センター リハビリテーション療法部)

参加人数: 30名

足病患者に対する理学療法を展開するうえで必要となる基本的知識について、2日間全6講義に渡り開催いたしました。初日は養成校で詳細に学ぶことが少ない足部の解剖学と運動学について、運動器認定理学療法士の福富先生からご講義いただくことから始まり、下肢動脈疾患や糖尿病性足病変に関する医学的治療や術後管理について医師の齋藤先生、松本先生に詳細にご教授いただきました。2日目は糖尿病足病変における理学療法の第一人者である河辺先生より、国際的な足病変のガイドラインに基づいた評価とリスク分類方法をご教授いただき、最後に大関先生よりバイオメカニクス理論やご自身の研究成果に基づいた足病患者の評価についてご講義いただきました。

非常に充実した内容の濃い研修会となり、普段足病患者に関わる方からこれまであまり関わった事のない方まで、幅広い方々にご参加いただき、終了後のアンケートでは96.2%の方が「足病患者に理学療法士として知っておくべき知識が理解できた」、92.3%が「足病患者に理学療法士の関わりは重要と感じた」との回答を得ることができました。

現在、我が国の下肢切断原因の第1位は糖尿病足病変や下肢動脈疾患による「足病」に由来します。理学療法士として、切断後に関わる事はもちろんのこと切断を予防するための知識や評価、介入法を学ぶことは非常に重要であることを理解することのできた研修会となりました。ご講演いただきました福富先生、齋藤先生、松本先生、河辺先生、大関先生、貴重なご講演を賜り、誠にありがとうございました。

生涯学習部 小池 孝康